

《各学年の特徴》

- 1年 いろいろな体の動かし方に気付き、楽しみながら活動をする児童が多い。
- 2年 いろいろな体の動かし方に気付き、友達と仲良く楽しみながら活動をする児童が多い。
- 3年 楽しみながら、運動に取り組もうとする児童が多い。運動技能に個人差が見られる。
- 4年 運動に楽しんで取り組もうとする児童が多い。運動の特性によって、技能に個人差が見られる。
- 5年 運動に対する興味・関心は高い。一方で運動の特性を捉え、ポイントを意識して取り組むことに課題がある児童もいる。
- 6年 運動の特性を意識して取り組む児童が多い半面、運動に対して苦手意識がある児童も見られ、技能面でも個人差が見られる。

《体力調査から見られる指導の重点》

長座体前屈の結果から、柔軟性に優れている児童が多い。一方、ソフトボール投げ、20mシャトルラン、反復横跳びにおいて、平均を下回る学年が多く、重点的に指導する必要がある。

育てたい力（課題）

- 1年 基本的な体力を友達との関わりを通して向上させる力。
- 2年 基本的な体力とその運動で身に付けられる技能を、友達との関わりを通して向上させる力。
- 3年 各種の運動の楽しさとその特性にふれ、基本的な運動技能を高めようとする力。
- 4年 各種の運動の楽しさとその特性にふれ、その行い方を理解し、基本的な運動技能を高めようとする力。
- 5年 友達と協力し、学び合いながら、それぞれの運動の特性や技・動きのポイントを理解し、助言をしようとする力。
- 6年 友達と協力し、学び合いながら、それぞれの運動の特性や技・動きのポイントを理解し、的確な助言をする力。

☆授業改善の具体策☆

- ・用具の点検や補充 ・技カードなどの資料の活用 ・視聴覚機器の活用
- ・グループでめあてや作戦を話し合う活動 ・学習カードの活用 ・ICT機器の活用
- ・ホワイトボードの活用 ・動きのポイントの提示 ・動きを見合う場の設定

《知識及び技能》

- 低学年 様々な運動遊びを楽しみ、必要な技能を身に付けさせるために、動きを見合う場の設定をする。
- 中学年 運動の特性に応じた技能を身に付けさせるために、ICT機器等を活用して、お手本や練習方法を示す。
- 高学年 運動の特性に応じた動きを理解し、技能を身に付けさせるために、動きのポイントを提示（児童の気付いたポイントも提示する）する。ICT機器を活用して、自分の試技を振り返らせる。

《思考力・判断力・表現力等》

- 低学年 学習資料の活用、学習カードへの記入、友達との関わりなどを通して、自分の運動を振り返る場を設定する。
- 中学年 学習カードに自分の考えを表現する力を養うために、グループ活動による話し合いや、自分や友達の動きを振り返る時間を設定する。
- 高学年 振り返りの場の設定を工夫することで、学び合いを深められるようにする。技能のポイントを具体的に言語化できるように、学習カードや提示資料を工夫する。

《学びに向かう力》

- 低学年 それぞれの運動遊びの特性を生かし、やさしい動きからスモールステップで始め、誰もがその運動遊びをすすんで楽しめるようにする。
- 中学年 運動の特性に応じた楽しさや喜びにふれることができるように、活動の場やルールを設定を工夫する。
- 高学年 個人の技能面やコミュニケーション能力等に配慮し、児童同士が活発に学び合えるように、グループ編成を工夫する。